

鹿児島県立錦江湾高等学校図書部より

まほら

2021.12 No.06

～冬休みの貸出～



いよいよ12月24日から冬休みが始まります

冬休みの貸出冊数は**1人10冊**までです。

貸出期間：2021年12月6日(月)～2022年1月7日(金)

返却日：2022年1月11日(火)



※まとめて5冊以上借りた人にはおしゃれで可愛いペーパーバックがついてきます!!



もうすぐ今年も終わり、お正月が来ます

みなさんはお正月のことについて知っていますか?

Q お正月とは?

お正月とは「年(歳)」や「^{みゆり}稔」を^{つかさど}司る神様を家族全員でお迎えして、新年を喜び、五穀豊稔に感謝してお祝いをするものです。

Q なぜ年末に大掃除をするの?

年末に大掃除をすることで年の汚れを隅々まで落として清めることにより、年神さまがより多くのご利益を持ってくるとされています。

Q 年越しそばを食べるのはなぜ?

そばの細く長いことから「長寿」や「健康」「家運長命」などへの願いも込められていて、さらに、そばはうどんなどよりも切れやすい特徴があるので「一年の不運や災いを断ち切る」という意味もあるそうです。

まほら館にはお正月のことに関する本もたくさんあります。

新年を迎える前にお正月のことを知り、良い1年を迎えましょう!



まほら館のおみくじで来年の運勢を占おう!

まほら館ではその年の運勢を決められるおみくじが引けます。

1日1回引くことができるので、何度でも引けて運勢を変えることもできます!



ぜひまほら館へ来て引いてみてください


錦江湾高校推薦図書 2021

『錦江湾高校推薦図書』とは、先生方が選ぶ高校生みなさんに読んでほしい本です。今年度も、『錦江湾高校推薦図書』を先生方の紹介文とともにまほら館にて展示しています。先生方が紹介された様々なジャンルの本をぜひこの機会に手に取ってみませんか?

理科 久保先生

得意に帆あげて

著者 本田 宗一郎
出版社 三笠書房




本田技研工業(ホンダ)の創業者である本田宗一郎氏が、その人生と仕事に対する哲学を語った一冊。氏の創造力と行動力は、人としての生き方を教えてくれる。自分の好きなことを徹底してやりなさい。氏の若者へのメッセージが満ちあふれている。

地歴公民科 一松先生

それでも僕は夢を見る

著者 水野 敬也
出版社 文響社




「いつだって自分の夢は叶わない」と夢を持つことがつらくなり、夢を捨ててしまった主人公。そんな主人公もやがて老い、最期の時を迎えます。主人公の人生や思いを鉄拳のイラストとともにたどってみて下さい。「生きること」を後押ししてくれる一冊だと思います。

理科 石澤先生

覚悟の磨き方

続訳 池田 貴将
超訳 吉田 松陰
出版社 朝日新聞出版




凹んでいる時に、先輩から頂いた本です。30歳という若さで亡くなった吉田松陰の志、考え方、行動力その全てに刺激を受けました。「後悔しない生き方とはなにか」自分なりの答えが見つかるかもしれません。

地歴科 原田先生

武士道エイトーン

著者 菅田 哲也
出版社 文藝春秋




高校生だからこそ持てる“勝負にかける情熱”、“抱える悩み”(スランプ、人間関係、進路など)、剣道をしていなくても共感できるところがたくさんあると思います。この本はまほら館にあります。ぜひ読んでみてください。

錦江湾高校推薦図書 2021

数学科 坂口先生

世にも美しい数学入門

著者 藤原 雅彦・小川 洋子
出版社 ちくまプリマー新書




映画化もされた小説「博士の愛した数式」の著者小川洋子が、その小説が生まれるきっかけとなった数学者藤原正彦と、美しい数学の定理や天才数学者のこと、素数や虚数、 π の不思議について語り合った対談集。他の数学本と違い、難しい専門的なことは書かれておらず、加えて、対談形式なので、気軽に読むことができます。数学が美しい、という感覚に少し触れることができるかもしれません。

国語科 石澤先生

バスケットボールが科学で強くなる

著者 小谷 究
柏倉 秀徳
出版社 日東書院本社




スポーツを科学の視点から分析し、“良い”とされている方法がなぜ良いのかを明らかにしている本です。体が小さくてもその利点を活かす方法等色々載っています。バスケットに興味はなくても、視点は他の場面で生かせると思うので読んでみてください。

英語科 大脇先生

1日10分のしあわせ

著者 朝井 リョウ 他
出版社 双葉文庫




タイトルのとおり、短い時間で読むことができ、読んだ後には温かい気持ちになります。読書好きの人でなくても気楽に読めます。8人の日本の名作家それぞれの短編作品をまず読んでみて下さい。そこから、お気に入りの作家が見つかり、次の1冊に出会えると思います。

数学科 阿久根先生

アイネクライネナハトムジーク

著者 伊坂 幸太郎
出版社 幻冬舎




登場人物たちが作り出す小さな奇跡の物語に自分にも期待をして、明日が楽しみになる本です。物語がいくつもあって場面も変わるので飽きずに読めると思います。是非読んでみてください。

体育科 内田先生

1日1話 読めば心が熱くなる

365人の仕事の教科書

著者 藤尾 英昭
出版社 致知出版社




365人の一流プロフェッショナルが365日分の言葉を贈る。
1日1話になっていて非常に読みやすい。

理科 木下先生

ケーキの切れない非行少年たち

著者 宮口 幸治
出版社 新潮新書

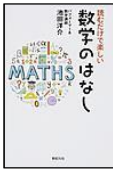


2019年に出版されて話題になった本です。私も当時読んで、衝撃を受け、自分のクラスの教師志望の生徒にも貸して読ませました。著者の宮口氏は児童精神科医で、少年院にいる多くの非行少年たちとの面談を通して、彼らの認知力の弱さに気づきました。様々な「生きにくさ」を抱えながら、気づかれずにほっとかれた子たちが非行に走ってしまう。早く気づくことで防ぐことが、教師の役目だと知りました。続編も出たみたいなので、そちらも読みたいです。

数学科 岡元先生

読むだけで楽しい 数学のはなし

著者 池田 洋介
出版社 新紀元社




日常生活の様々な場面において“数学”が関係していることを分かりやすく書いてある本の1つです。“なぜマンホールは丸いのか？”や“ガチャガチャをコンプリートするには…”など物事の本質や自分自身の感覚と現実の“ずれ”を感じることができ本となっています。

国語科 平山先生

葉桜の日

著者 鷺沢 萌
出版社 新潮社



3年生の現代文の授業「文学の未来」の中で、“過去に出会った文学作品”をそれぞれ振り返りました。その時私が紹介したのは「鷺沢 萌^{さぎさわめぐむ}」さんという女流作家でした。若くして亡くなられた彼女の作品の中の一冊を紹介します。自分さがしをしている君たちの心揺さぶるかも。